

Guidelines for the Measuring Procedure (dated 05.10.2020)

測定方法ガイドライン(2020年10月5日付)

スキージャンプスーツ

選手の測定

測定中、選手はゆったりした姿勢で立っていないなければならない。服はショーツ一枚(スリップタイプのアンダーウェアのみ許可)で裸足とする。ボディー、脚、腕の周りは軸に90度で測定されるが、以下は例外とする:

- A) 腕の長さ: 両腕を胴体から水平に広げた状態で測定する。
胸部筋肉と胸郭の間(写真1参照)から手根骨(前腕の終わりで印をつけた部分-尺骨茎状突起)写真2参照)まで前側を測定する。

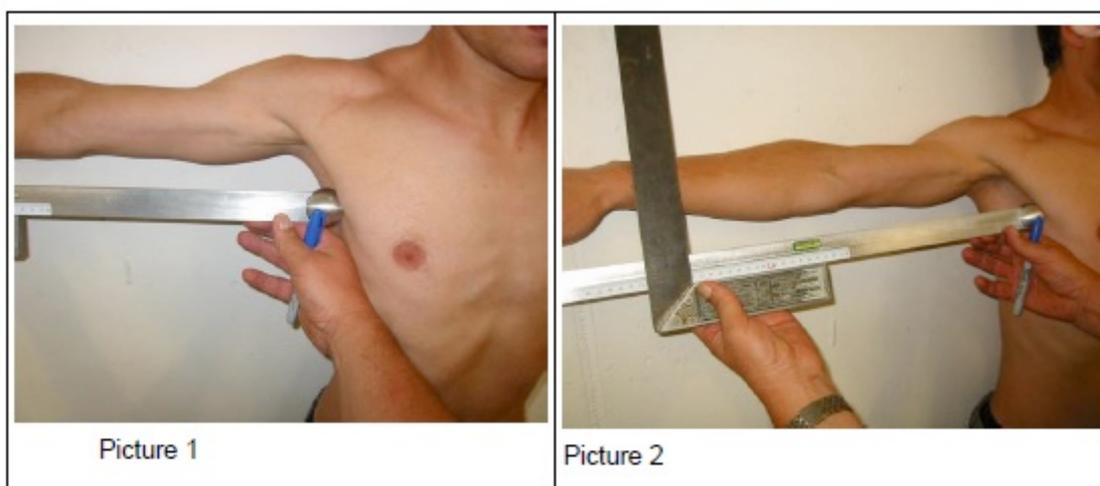


写真1

写真2

- B) 股下: 地面から股下までの垂直測定: 脚はまっすぐで足は40cm離さなければならない。
かかと、ふくらはぎ、尻、肩、頭を壁に付けなければならない。

標準測定要素:

- ・身長
- ・股下の長さ(B,C参照)
- ・腕の長さ(A参照)
- ・首のサイズ
- ・足のサイズ

選手から再測定の要求があった場合、大きい数値(身長、長さ)が考慮される。

スーツの測定

スーツの外側を測定する。スーツはまっすぐ平らで、しわがないことをチェックすること。スーツに選択されたポイントをマークし測定する。それから、そのポイントの実測値を選手で測定する。

- A) 前腕の長さ(AL)は、脇の下のシーム(縫い目)が交差するところから、袖の先端までのシームに沿って測定する。測定した数値は、腕の実寸を上回ってはならず、かつ最大許容差4cmを下回ってはならない。

- B) 前股下の長さ(SL)は、股下のシームが交差するところ(SX)から、スーツの脚部分の先端までのシームに沿って測定する。測定した数値は、測定した選手の股下の長さを下回ってはならない。
- C) 股下:地面から股下まで垂直に測定する。選手はジャンプ台でジャンプ前と同じように(ブーツに装着された)ジャンプスーツおよびブーツを着用しなければならない。測定時は足を 40cm 離し、脚は完全に伸ばさなければならない。測定した股下サイズは選手のボディーで測定した股下サイズと一致しなければならない。

股下の長さと同様のコントロールは同時に実施されなければならない。

- D) クロッチのシームクロス部分(Sx)がスーツの最下部でなければならない。このクロス部分はスーツの真ん中で(フロントからバック)最大許容差 2cm とする。
- E) スーツ内側腰骨真上にジッパーからジッパーまで腰回り水平に非伸縮性ベルトを縫い付けなければならない。同ベルトの幅は 2~4cm、厚さ最大 2mm でなければならない。ベルト周りのスーツ寸法は、スーツを伸ばした時でも、ボディー寸法を超えてはならない。

競技用品コントロール

選手のボディーのあらゆるポイントを測定可能とし、かつ、スーツ上で同じ部分を測定・比較することができる。選手がスーツを着用し測定する際、選手は両腕を伸ばしヒジをボディーから 30cm 離す。脚も伸ばし 40cm 離す。選手は直立姿勢で立たなければならない。

ジャンプスーツはすべての箇所で選手のボディーにぴったり合うものでなければならない。

直立姿勢でスーツ寸法はボディー寸法と一致しなければならず、最大許容差はスーツのあらゆる部分においてボディーに対し 最低 1cm、最大 3cm(女子スーツは最低 2cm、最大 4cm)とする。ただし、ブーツ周辺部分は例外とする:ジャンプスーツは、ブーツ周辺寸法より最大 10cm 大きくすることができ(ヒザより下)、ブーツを覆わなければならない。

ボディーウエイトコントロール

ボディーウエイトコントロールは、ヘルメット、ゴーグル、グローブ、スキージャンプブーツ、ウエッジ無しで行われる。

ジャンプスーツのジッパー

スーツは、垂直にフロント中心のジッパーで閉じなければならず、閉じたジッパーストラップは鎖骨(collar bone)より1.5cm から5cm 飛び出していなければならない。ジッパーは完全に閉まっていなければならない。ジッパーの下部の長さは、股下のクロスする部分より最低10cmのものまで認められる。

クラッシュヘルメット、ジャンプブーツ

標準化された測定ツールおよび測定方法でヘルメットとブーツのサイズを測定する。

ブーツの測定されたインナーソールは測定された足のサイズプラス最大許容差2cmを超えてはならない。スキージャンプブーツは内側から外側に測定される。

ブーツは両サイドで同じ厚さでなければならない。

空気透過率

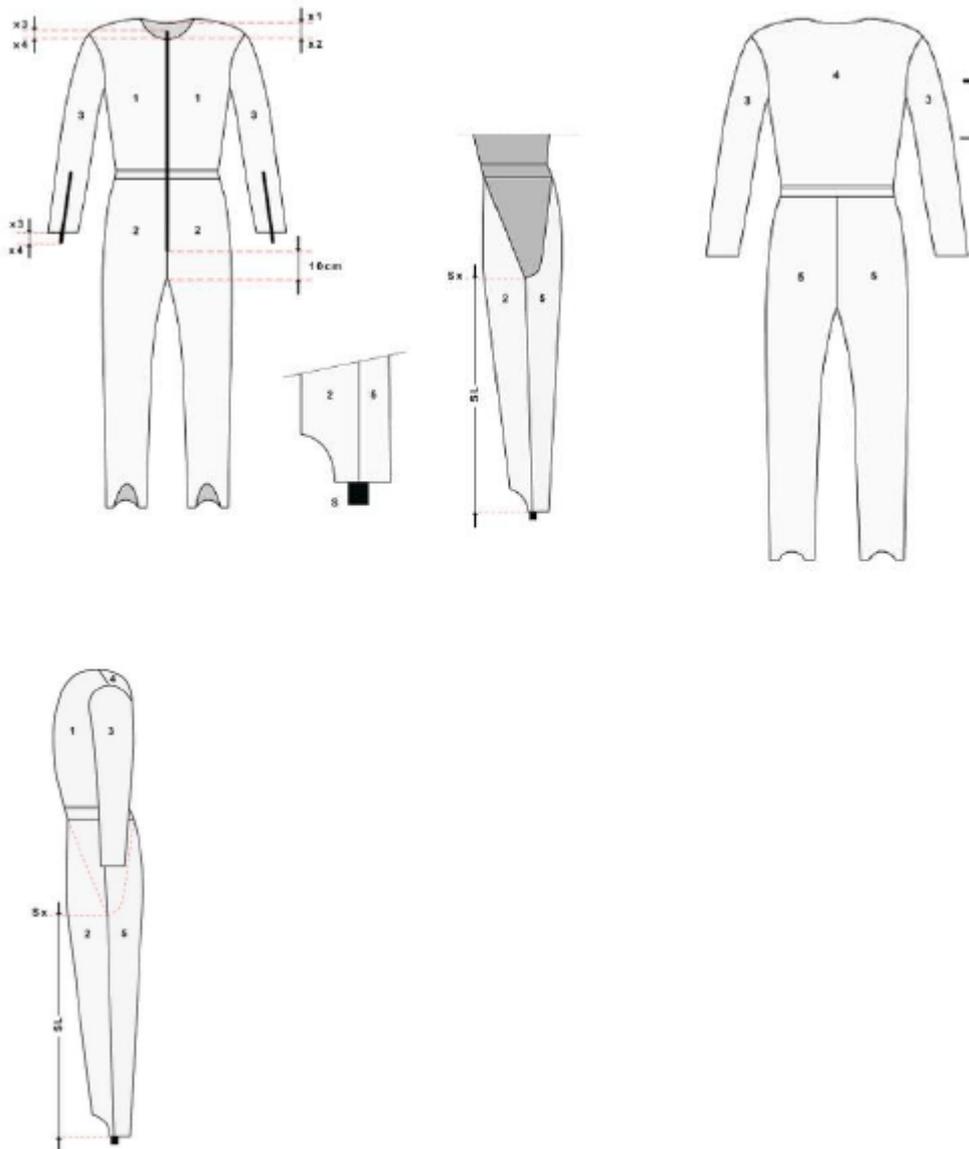
ジャンプスーツのあらゆる部分で測定された素材の空気透過率の差は12リットル以下とし、外側からも内側からも同一であること。

脇-肩パーツの測定

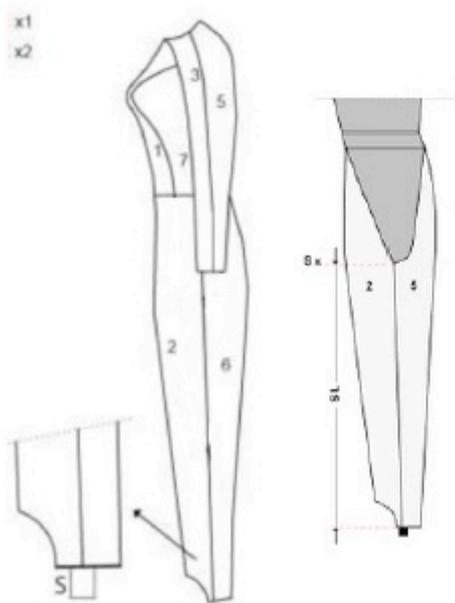
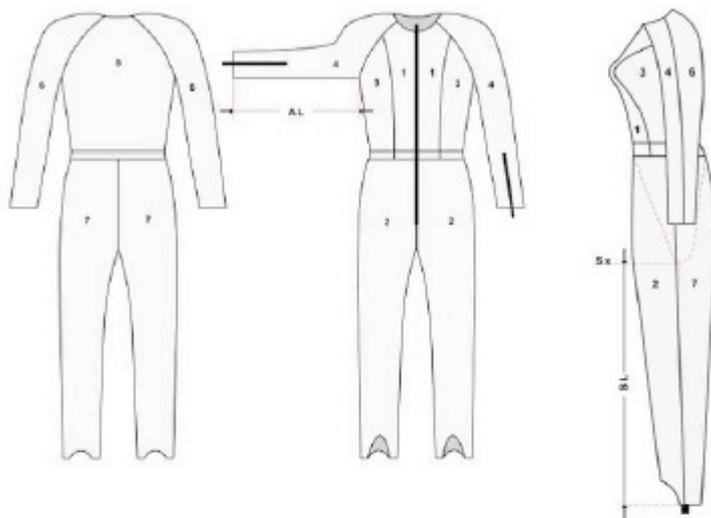
脇-肩周りの測定は、選手がスーツを着用している際に測定される。腕はボディーから45度で伸ばす。選手はまた、スーツを着用せずに測定され、腕をボディーから45度で伸ばした状態で測定される。

男子スキージャンプスーツのシーム

シームの外形の基本は以下の図の通り。



女子スキージャンプスーツのシーム
シームの外形の基本は以下の図の通り。



アンダーウェア

アンダーウェアは二つのパーツ（シャツとパンツ）から構成され、均一の伸縮素材で作られる。

- シャツのフロントパーツの真ん中にあるジッパーを許可する。
- シャツ内側にバックプロテクターを着用する場合、ジッパーはフルレングスを必須とする。
- オーバーラップ部分およびシームの厚さは 5mm 以下でなければならない。

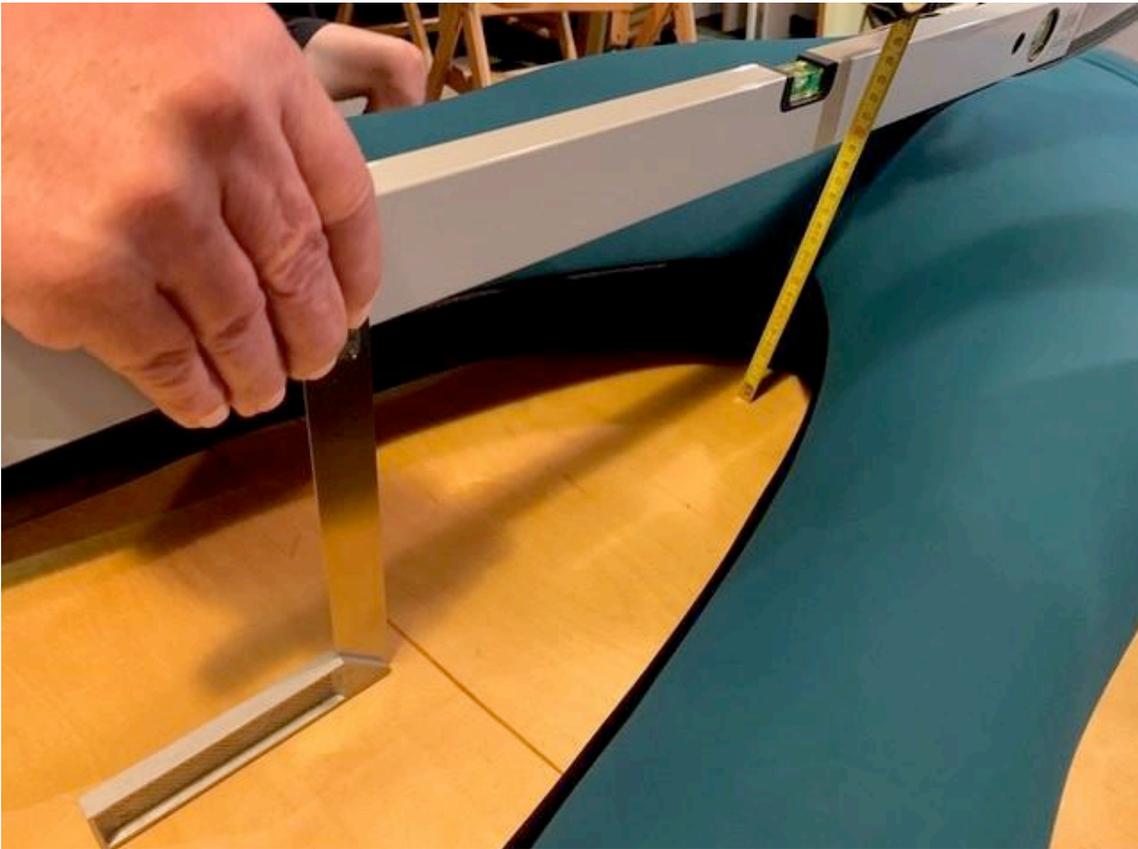
スーツやボディーのあらゆる部分でアンダーウェアを固定することは認めない（ストラップ、フック、テープ、その他固定補助材等）。袖はヒジ上でなければならない。パンツの脚はヒザ上でなければならない。ストッキング/ソックスとパンツのオーバーラッピング（重ね合わせ）は認められない。

（* 訳注: 文末から移動）

スーツの中に髪の毛を収めることは認めない。髪の毛は外側にゆるくそのまま、もしくはヘルメットの中に収める。

（* 訳注: 写真 3 枚追加）





グローブ

グローブの縫目はグローブの内側になければならない。

トランスポンダー及びモーションセンサー

公式データ・スコアリングプロバイダーが提供し、FIS が承認するライブや記録データを送るトランスポンダーとモーションセンサーを、選手は公式練習や競技会で競技用品に装着しなければならない。トランスポンダーとモーションセンサーは選手のスピード、ポジショニング等の外部データを送る。このサービスは公式タイミング・データプロバイダーにより提供され、そこから発生したデータは各ナショナルスキー連盟や FIS に無料で提供される。

ウエッジ

ウエッジは左右対称でなければならない(テンプレート及び図を参照)。以下の最大サイズが許可される。

バック部分: 5.5cm

ウエッジのバック部分は、ウエッジの半径にかかわらず、テンプレートの後ろ部分に接触してなければならない。

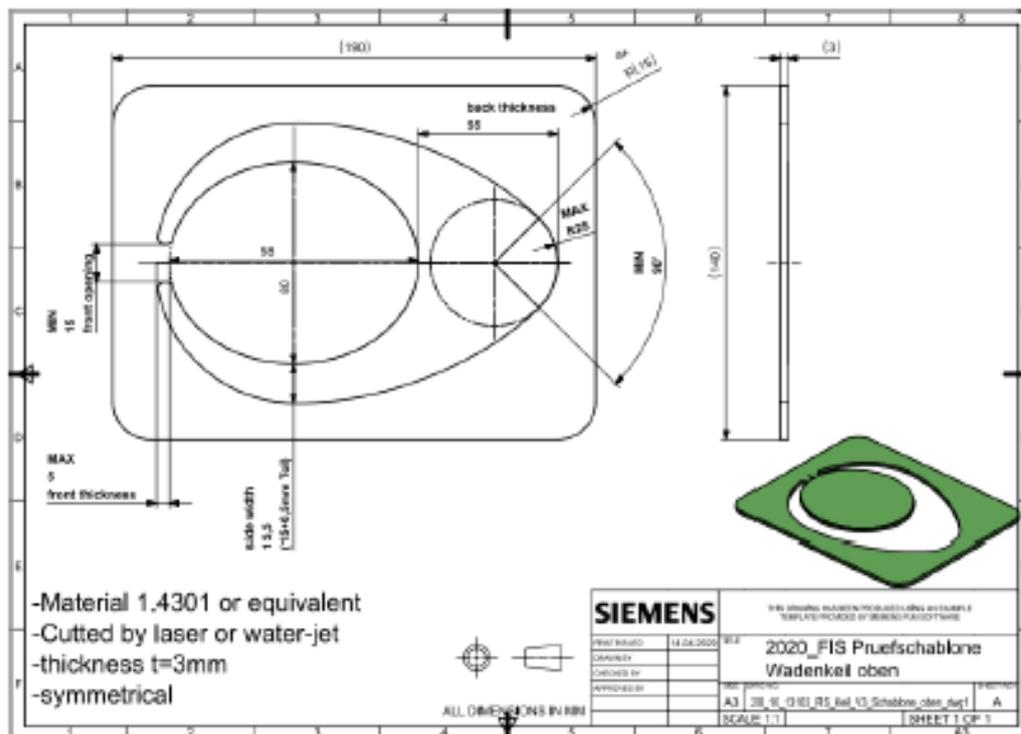
サイド: 各サイド 1.5cm

フロント部分: 0.5cm

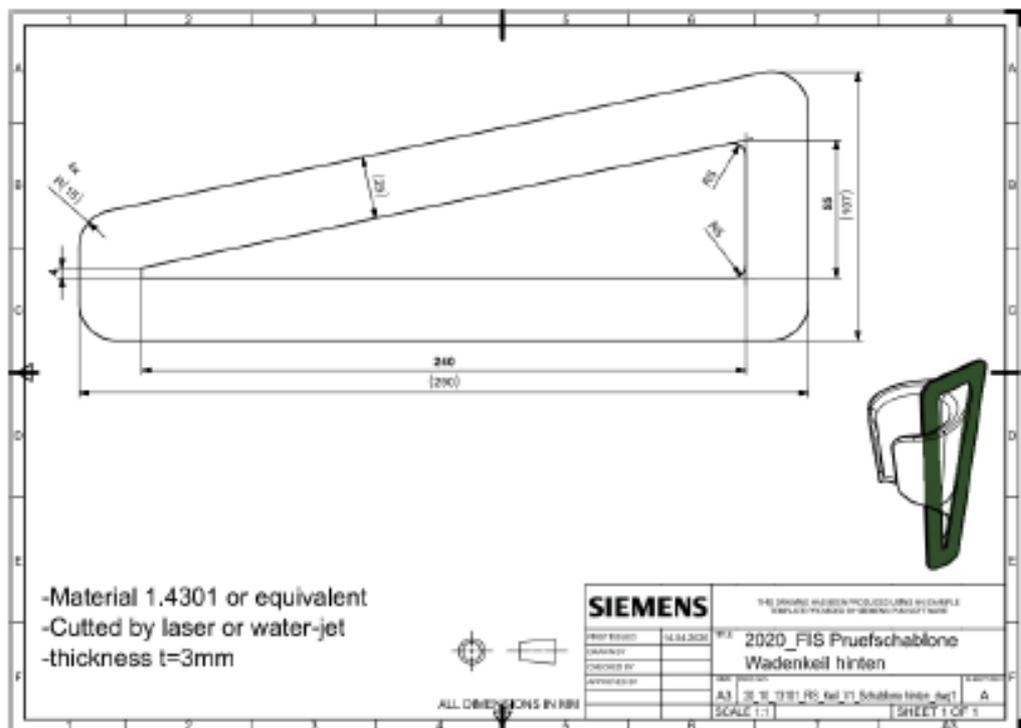
ウエッジは中央部分のみ開いていること(どちらかのサイドが開いているのは許可されない)。

ジャンプ中、ウエッジの上側エッジは、ジャンプブーツの上側エッジと同じレベルに位置してなければならない。





- マテリアル 1.4301 又は同等のもの
- レーザー又はウオータージェットでカッティング
- 厚さ $t=3\text{mm}$
- 左右対称



- マテリアル 1.4301 又は同等のもの
- レーザー又はウオータージェットでカッティング
- 厚さ $t=3\text{mm}$

バックプロテクター

定義

バックプロテクターは追加用品のひとつで、選手の背中を外力から保護するものである。背中の中の着用とする。

規格

プロテクターの素材は規定の形(写真1参照)とし、EC EN1621-2:2014に準じる極めて衝撃吸収が高い粘弾性の発泡体で構成される。バックプロテクターは、選手の脊柱の身体構造上のカーブになじみ、まっすぐな姿勢で身体にぴったりと重なるものでなければならない。

最大サイズおよび厚さは、パフォーマンスレベル1または2に合致しなければならない。

バックプロテクターの端の部分の厚さは薄くなる。空気力学的効率を上げる目的のデザインは禁止する。バックプロテクターはアンダーウエアスーツの適切なポケットにいれて着用しなければならない。ポケットはアンダーウエアスーツに合体したパーツである。

バックプロテクターのサイズ

S	身長	120-140 cm
M		135-155 cm
ML		150-170 cm
L		165-185 cm
XL		180-205 cm

写真1 上

Photo 1

up



Down

下